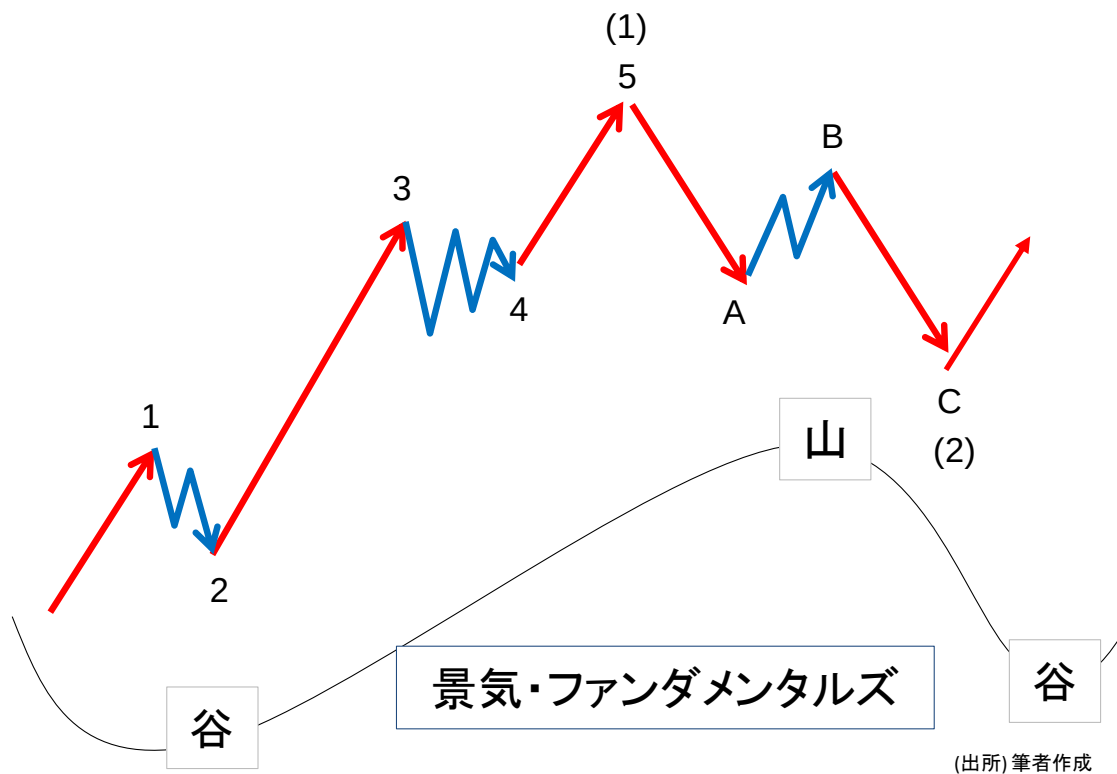


宮田直彦のエリオット波動レポート

マンスリー・フォーカス

【米ドル/円】

9 月 22 日に一時 1 ドル=146 円に接近し 24 年ぶり円安水準を更新。従来からの「23 年に 1 ドル=150 円」というシナリオは、その完成に向けて最後の詰め of 段階を迎えています。



エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

米ドル/円

24 年ぶりの円安水準を更新

9 月 22 日、円相場は一時 1 ドル＝146 円に接近、24 年ぶり円安水準を更新しました。年初の水準(1 ドル＝115 円)から一気に 30 円超も円安が進み、筆者が理想とする「23 年に 1 ドル＝150 円」シナリオは、その完成に向けて最後の詰めの段階を迎えています。

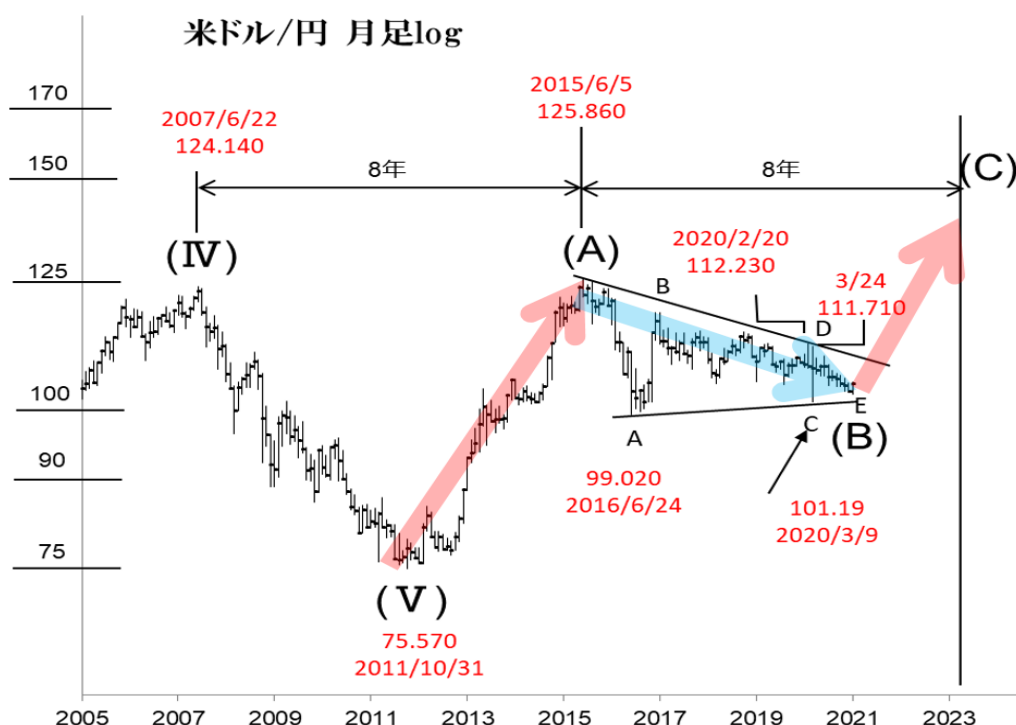
振り返れば、筆者が新しい環境の下で、「2023 年～24 年に向けてダイナミックな円安が進む」と打ち出したのは 20 年末から 21 年初めにかけてです。もちろん、この見通しが浸透するまでには時間がかかりました。なぜなら当時、米ドル/円は 4 年連続(2017～20 年)で年間 10 円程度の小幅な値動きにとどまっておられ、21 年初の時点で標準的な見通しは「米ドル/円は今年も動かない。動くなれば円高方向だろう」というものだったのですから。

しかし蓋を開けてみれば、21 年 1 月からこれまでの 1 年 9 カ月間で、ネット 40 円を超える大幅円安となったのです。それは円相場の歴史(変動相場制に移行して 50 年を超える)においても滅多にみられない、ダイナミックな変動でした。

元々、筆者が「40 年の円高時代は 2011 年に終わり、そこからは円安時代へ」という長期予想を打ち出したのは 2010 年のことでした。そのときから 12 年にわたり、米ドル/円はほぼシナリオ通りに動いてきました。「エリオット波動」の予測能力の高さに改めて驚嘆を禁じえません。

[2021 年 1 月時点の米ドル/円見通し]

出所：Bloomberg 期間：2005/1-21/1



24 年ぶり円買い介入—(C)波終了へのカウントダウン開始?

急ピッチの円安進行をけん制するためでしょうか、9 月 22 日に政府・日銀は 24 年ぶりに円買い介入を実施しました。先進国で日本だけが金融緩和を続けており、日本の貿易赤字も拡大する状況では、円買い介入の効果は限られるという見方が多いようです。先ずもって、その通りでしょう。

もっとも筆者にとって今回の円買い介入は、円安終了へのカウントダウン開始を告げるものに思えます。

21 年 1 月の 102.579 円を起点とする(C)波は、その最後の上昇・第(5)波が進行中です。この波動カウントが正しければ、米ドル/円の上昇トレンドは(早ければ)年内にも終わるでしょう。



米 10 年長期金利 4%はチャート節目

ここで、米ドル/円動向の行方を大きく左右する、米金利マーケットの現状を確認してみましょう。

9 月 28 日、米 10 年長期金利は一時 4.015%まで上昇しました。4%を付けたのは、およそ 12 年 5 カ月ぶりです。もっとも目先の達成感と英長期金利の急低下などをきっかけに米長期金利は大きく低下。結局この日は、高値から安値(3.69%)まで 32bp も動く、値動きの荒い 1 日となりました。

実は 4%処という水準は、注目度の高いチャート節目です。1981 年～2020 年の金利低下幅に対し、23.6% (フィボナッチ比率) 戻りの水準が 4%(3.978%)となっています。



債券版「恐怖指数」は金利変動リスクの高まりを暗示

米国債の先行き変動リスク指数として、MOVE 指数というものがあります。米国株の「恐怖指数」として VIX 指数が有名ですが、MOVE 指数は VIX 指数の債券版です。

米 10 年長期金利が 4% にタッチした 9 月 28 日、MOVE 指数は 158.99 と 20 年 3 月 9 日 (163.70) —コロナショックで世界中のマーケットが大荒れの時—以来の水準に上昇しました。これは市場参加者が今後米国債のボラティリティ(変動率)が非常に大きくなると見込んでいることを示しています。今後は金利が一段と上昇すること、その反対に大きく低下すること、同じように起こり得るということです。

エリオット波動からは、足元の金利上昇は 20 年 3 月 (0.3137%) 以来の金利上昇トレンド(五波構成)における、最後の金利上昇(第 5 波)に位置付けられます。上記 MOVE 指数は、近いうちに金利の高値波動が起きる可能性を暗示しているかもしれません。

米長期金利が第 5 波を終えつつあるということなら、この先は米長期金利低下に伴う日米金利差縮小によって、米ドル/円の上値は抑制されることになりそうです。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ-100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を取引の額に乗じて得た額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
